

JA 全農 ET センターニュース平成 20 年 8 月号

今月号は ET センターにおける平成 19 年度研究報告書の中から「ET センター黒毛和種供卵牛の育種価判明率向上のための実証試験」についての一部のデータを紹介させていただきます。

【目的】

黒毛和種受精卵の供給事業において、育種価を持った供卵牛から採卵すること、さらに育種価を活用して供卵牛の選抜淘汰に反映させることで供卵牛群を順次高育種価牛群に更新（改良）出来れば受精卵の品質向上にもつながり、生産者へも高育種価受精卵の供給が可能となる。本試験ではセンター供卵牛の育種価判明率の向上のために ET センターで製造した受精卵由来の ET 産子の肥育成績の回収ならびに解析を行った。

【試験方法および材料】

ET センター供卵牛由来の受精卵から生産された ET 産子の産肉成績を解析するため分娩から肥育出荷までを行う一貫肥育農場から成績を回収した。

【結果】

345 頭の産肉成績を回収した。雌雄別および全体の産肉成績は以下の通りであった。

	雄（233 頭）	雌（112 頭）	全体（345 頭）
枝肉重量：	488.2 ± 48.8	466.1 ± 50.0	481.1 ± 50.2
ロース芯面積	57.2 ± 7.8	58.6 ± 8.3	57.6 ± 8.0
脂肪交雑基準値	7.8 ± 1.7	7.2 ± 1.7	7.6 ± 1.7
A・B 4・5 率	95.3%（222/233）	91.1%（102/112）	93.9%（324/345）
A・B 5 率	59.2%（138/233）	46.4%（52/112）	55.1%（190/345）

【結論】

更なる産肉成績の回収を進めて育種価判明率向上を目指すとともに、現在、育種価を活用した供卵牛の選抜淘汰に活用中です。